



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

看護職者の生涯学習(その2) : 21世紀の看護は実践力の向上

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-07-16 キーワード: life-time learning for nurses, improvement in practicing ability, specialist nurse 作成者: 西村, 正子, 瀧井, ヒロミ, 湯舟, 貞子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/12461

看護職者の生涯学習 (その2) 21世紀の看護は実践力の向上

西村正子 瀧井ヒロミ* 湯舟貞子*

岐阜大学医学部看護学科母子看護学講座

*神戸常盤短期大学

Life-time Learning for Nurses (Part 2)

Nursing in the 21st Century Calls for an Improvement of Practicing Ability

Masako NISHIMURA Hiromi TAKII* Sadako YUFUNE*

Department of Maternal and child Health Nursing, Gifu University of Medicine

**Kobe Tokiwa college*

The nurses were asked to write about how they think about the “life-time learning as a specialist” in our previous report, and the substance of their replies was analyzed by the KJ method. The nurses in the positive group wanted to become a specialist nurse or certified nurse and to raise their levels of practicing nurse science. Many of them wanted to study widely resulting in the acquisition of personal appeal.

The nurses in the non-positive group wanted to continue learning, but had no time to spare because of the household chores and child care.

Not only for the positive group but also for the nonpositive group, therefore, it is necessary to develop the talent with considering the individuality and to make up the system where all nurses can work positively.

Key words: life-time learning for nurses, improvement in practicing ability, specialist nurse.

はじめに

近年、看護は大きな変革を遂げようとしている。臨床では専門看護師や認定看護師の導入など看護職者の専門性をさらに追求し、質的向上を目指している。その中で職場の環境を整えて積極的に学ぼうとする者、多くのことに興味をもち学んでいこうとする者、幅広い人材を活用し、新しい知識を吸収しようとする者など様々である。反面、現状の仕事や家庭を支えることで時間や心のゆとりがない者も多い。大学等で学びたいが障害が多いため断念しなければならない人もいる。このような現状を分析し、臨床で働く看護職者は自己の生涯学習をどのように考えるか積極群と非積極群に分け検討し、看護職者の人材育成に若干の示唆を得た。

研究方法

1. 調査場所：大阪市内における約500～600床の総合病院3ヶ所において調査を実施した。
2. 調査期間：平成13年5月1日～平成13年7月31日
3. 調査内容：「その1」で報告した研究方法に基づき、調査を実施した。その中で「自己の専門職者として

の生涯学習について」考えを自由記載してもらった。その内容をKJ法にて分析した¹⁾。

結 果

自己記述内容をKJ法にて分析すると仕事に対する取組みに対して、看護の仕事に関して積極的に取り組もうとしている者「積極群」と何らかの障害や理由によって積極的に取り組めない者「非積極群」に分かれた。「積極群」は1. 実践看護学の専門をさらにレベルアップしよう。2. 学習環境を整えて積極的に学ぼう。3. 前向きに興味をもち学ぶことの喜びを味わう。4. 幅広い人材を活用し、新しい知識を吸収しよう。等の島に分かれた。また、看護の仕事に対する「非積極群」は1. 大学で学びたいが障害が多い。2. 家庭を支えることで精一杯である。3. 時間的余裕が欲しい。4. 大学教育を受けるのは無理である。等の島に分かれた。(図1・図2) <積極群>

1. 実践看護学の専門をさらにレベルアップしよう。

臨床で働く看護職者は、現在の職場である救急外科で自分を試し知識、技術の習得に望みたいと考えている人や看護することにより、自分の学習意欲を高め、臨床で

働きながら学んでいきたいと考えていた。病院で働くためにはどこへ配置転換になっても自信をもち仕事ができるように技術を身につけたいと考えていた。また、自分が興味ある分野で力をつけ、患者の喜びを身近で感じ、臨床看護を通して頑張りたいと考えている人も多くいた。教育機関で学習した学問を実践していくには長い経験が必要であり、実践は貴重な財産であると考えている人も多数いた。そして、専門看護師を目指したい人やその免許はもたなくても、専門職者として時代を先取りしたい、質的向上を目指したいと考えている人も多い。また、カウンセリングについて勉強したい人もいた。そして看護職者は学会や研修会に参加し学習を継続していく必要性を理解していた（図1）。

2. 学習環境を整えて積極的に学ぼう。

臨床の与えられた環境の中で自分らしく考え、精一杯生きていくことが大切であり、通信制の大学で働きながら学位を取得している看護職者が増加している。また、看護職者の中には状況が許すなら学生の教育などに関わっていきたくて考えている者も多数いる。また、どんなことにも積極的に学んでいく姿勢を十分に自覚し、学習することで新しい発見があるという意見も多かった（図1）。

3. 前向きに興味をもち学ぶことの喜びを味わう。

多くの看護職者の中には看護という狭い限られた空間

の中から飛び出し、他の事を学び、人間の魅力を身につけたいと考えていた。また、看護の専門性を追求するために認定看護師を目指し新しい知識を吸収したいと考えている人も多くいた。看護師として学ぶだけでなく人として一生学んでいきたいと考えている人も多い。また、具体的に救急で専門看護師の資格を得たい、大学院で学びたい、語学の勉強をし視野を広めたい、芸術の経験を豊かにしたい等、積極的な意見が多かった（図1）。

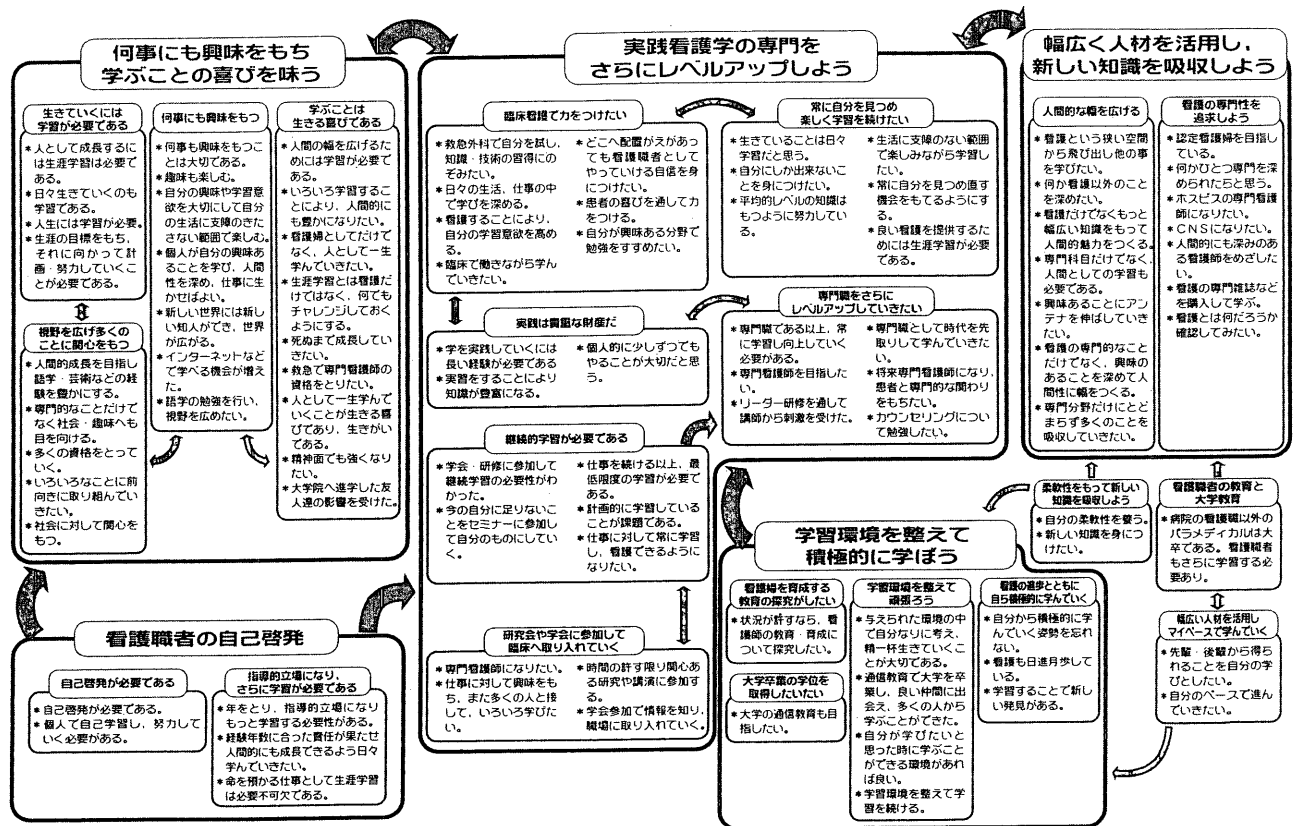
4. 幅広い人材を活用し、新しい知識を吸収しよう。

専門分野だけに止まらず柔軟性をもって吸収し、先輩や後輩から看護やそれ以外に得られることを自分自身のペースで学んでいきたい。看護職者の多くは幅広い知識や実践力を身につけ、専門職者としてのレベルアップを望んでいるが、仕事や家庭を支えることで時間や心のゆとりがないと考えている人も多い（図1）。

<非積極群>

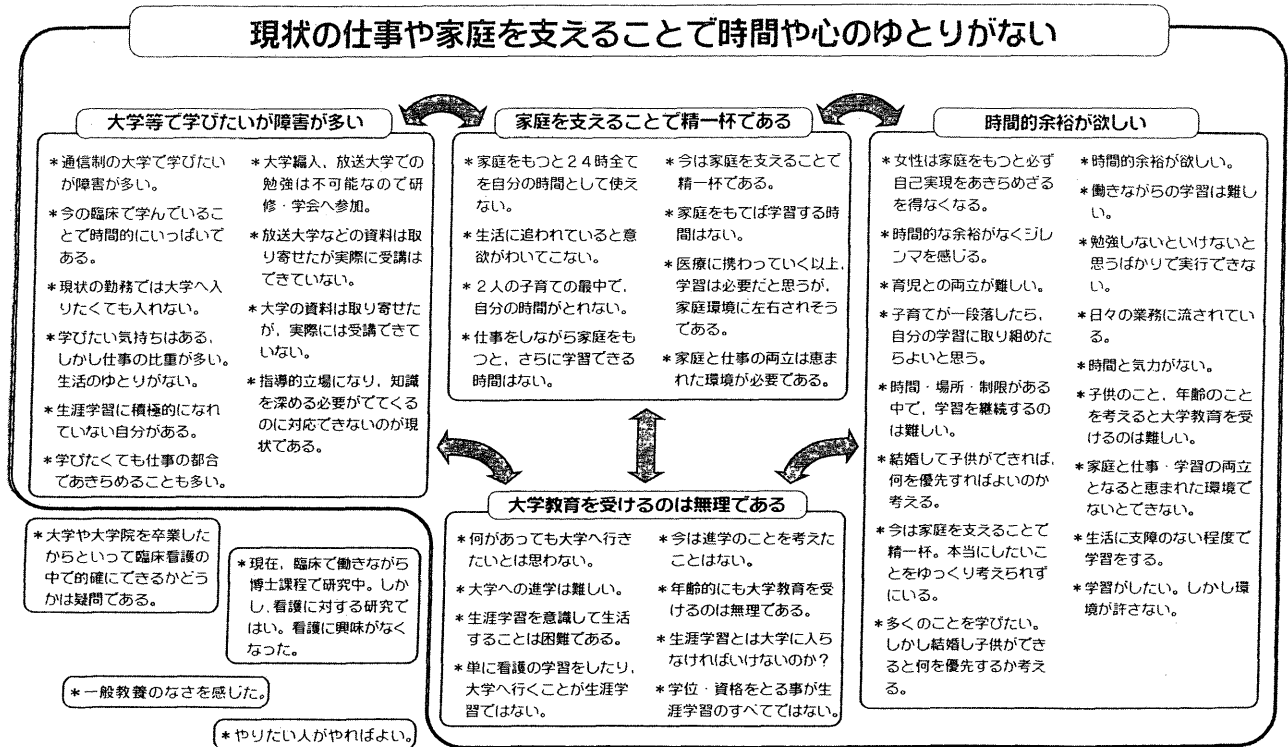
1. 大学で学びたいが障害が多い。

大学編入・通信制大学・放送大学等で学び学士を取得したいが、家庭や子供の事で時間的ゆとりがない者が多数いる。また、それらを受講中であるが思うように進まないという人が多い。また病院で指導的立場になり、知識を深める必要が出てきているのに対応ができないのが現状である。現状の勤務状況では大学へ入りたくても入



積極群

図1 21世紀の看護は専門職者の質的向上



非積極群

図2 時間的な余裕や心のゆとりがない

れないのが現実である。また、多くの仲間は幅広く、個人にあった趣味や学習を熱心に取り組んでいるが、自分は積極的になれない、という戸惑いの声もある(図2)。

2. 家庭を支えることで精一杯である。

家庭をもつと家事に追われて24時間全てを自分の時間として使えない。生活に追われていると意欲がわいてこない等、家庭と仕事の両立の難しさがある。また、子育ての最中の人が多く、時間的な余裕がないと多くの人が訴えていた(図2)。

3. 時間的な余裕が欲しい

看護職者は専門職についての学習や私事で、短時間でも自分の時間を持ち、多くのことを学びたいと考えている人が多い。しかし、家庭を持ち、育児と仕事の両立は恵まれた環境が必要であるため、今は家庭を支えることで精一杯である。子育てが一段落したら自分の仕事に取り組みたいと考えている人も多かった(図2)。

4. 大学教育を受けるのは無理である。

大学へ行きたいとは思わない、そして年齢的にも大学教育を受け単位を取得するのは無理であると考えている人も多い。また、学位や資格をとる事が生涯学習の全てではないと考えている者も多い。そして、大学や大学院を卒業すれば臨床看護の中での確にできるかどうか疑問であると感じている人もいる。現在、臨床で働きながら博士課程で研究中の人がいた。しかし看護に対する研究ではなかった。そして看護に対する興味が無くなった、という寂しい意見もあった(図2)。

考 察

臨床で働く看護職者の率直な意見を聞くことができた。多くの看護職者は医学・医療の発展とともに常に前向きに学習に取り組んでいることが分かった。自分の興味ある分野で力をつけ患者の喜びを肌で感じ、臨床看護を通して仕事に取り組みたいと考えている者は現在の職務に対して満足して働いているためであろう。Carol E Flecber も述べているように実践することに喜びを感じ、その仕事を楽しんでいると表現している²⁾。仕事を継続するには前向きに行くことが必要である。筆者の調査によると仕事に対する満足感は20歳代より30歳代の方が有意に満足して働いていた³⁾。仕事を継続するには、人的、物的すべてに対して満足感が得られるように働くことが患者にとっても意義あることである。臨床看護を継続し、常にレベルアップを心がけることは大変重要なことである。仕事に対してマンネリ化せず常に前向きに進んでいくことにより患者からも良い評価を受ける。近年、働きながら大学や大学院へ入学している人が多くなった。学習しやすいように大学側が門を拡大している所もある。これらを利用して積極的に学んでいくのも良い方法ではないかと考える。平成4年に文部省から出された報告書「リフレッシュ教育推進のために」で始めて提言されたことばである。「リフレッシュ教育とは社会人、職業人が新たな知識、技術をリフレッシュするため、高等教育機関(大学院、大学、短期大学、高等専門学校)において行う教育」と定義されリフレッシュ教育は生涯学習の

一分野である、と朝倉は述べている⁵⁾

仕事を継続しながら専門をレベルアップするために学習を継続する気持ちはあるが、家事が中心になり時間的余裕がなく学習に力を注ぐことが出来ないという意見がある。年齢的にも大学教育を受けるのは無理であると諦めている人もいる。また、大学・大学院教育だけが看護のレベルアップに繋がらないと考えている人も多い、仕事に対して満足せず働いている人も少なからずいる。現在、臨床で働きながら大学院の博士課程で学んでいる人で、学習は継続しているが、看護の研究ではない。看護に対する興味はなくなったという、寂しい意見があった。看護管理者は意欲のある人材を十分に早期から把握する必要がある。

看護管理者は人材育成を考える時、多くの人のなかからどのように個人の力やニーズを引き出せているのであろうか。病院において、将来を見越した適切な人材育成とその選択方法について検討することが必要である。筆者の過去の調査において病院管理の基本は看護職者が前向きに研究活動が出来るように組織として体系化していかなければならないことを示した⁶⁾。看護管理者は院内教育を考える時、個人の問題意識を大切に学習者側がニーズを見出し、学習が優先されるように環境を整えていくことが不可欠である⁷⁾。と本田は述べている。ハッチンズは「すべての成人男女に対して生涯生活のあらゆる段階でパートタイムの成人教育を提供するのに加えて学ぶこと、人間らしくなることがその社会の目標となっており、あらゆる期間がこうした目的に向かうような方向へ価値観の転換に成功した社会になるであろう。」と述べている⁸⁾。誰もが仕事を継続する以上希望をもち働きたいと願っている。しかしその希望が絶たれた時、目標の方向は異なってくるのではないか。看護管理者は、人材育成について、多くの人が満足できるように個別性を考え、きめ細かく検討する必要がある。

結 論

1. 臨床で働く看護職者は実践看護能力をさらにレベルアップし、専門看護師や認定看護師の資格を得て専門性をさらに追求したいと考えている。
2. 看護以外にも幅広く興味をもち学習し、人間性を豊かにしたい。
3. 専門職に対する学習は継続したいが、家庭を支えることで時間的な余裕がない人も多い。
4. 看護管理者はきめ細かく個別性を考えた人材育成を検討し、全員が前向きに仕事に取り組むことが出来るよう考える必要がある。

謝 辞

この調査を実施するにあたり、大阪市の三つ総合病院における看護部長様はじめ多数の看護職者の皆様から御礼申し上げます。倫理的配慮にあたっては調査前に各病院の看護部長の許可を得て、個人の意見が明確にな

らず集団で処理することで了解を得た。

文 献

- 1) 川喜田二郎：発想法，一創造性開発のために一，中公新書，1999.3—189p
- 2) Carol E.Fletcher：Hospital RNs' Job Satisfactions and Dissatisfactions, JONA 31(6), 324-331, (2001)
- 3) 西村正子：看護職者の生涯学習，一年代別比較と自己教育力からの検討一，岐阜大学医療技術短期大学部紀要,7(1),45-55 (2000)
- 4) 西村正子・田中紀美子：国立大学病院における看護職者の生涯学習，勤務における疲労感と自己教育力,50(2),41-45 (2002)
- 5) 朝倉祝治：大学院レベルのリフレッシュ教育，大学改革と生涯学習，試行と推進に係わる新しい提案，15-39(1995)
- 6) 西村正子：看護婦の生涯学習，人間形成教育の追求，新見女子短期大学紀要,19(1998)
- 7) 本田多美枝：「看護の専門的能力」の視点からみた院内教育ニーズの分析，一N系病院における看護婦の調査から，一日本看護科学学会誌,20(2),29-38 (2000)
- 8) 扇谷尚：カリキュラム統合の研究，一般教育の新しいパラダイム建設を目指して，一般教育学誌,5(2),13-18 (1983)
- 9) 猪山勝利：リカレント教育における大学の役割，教育と医学,1996.
- 10) 梶田叡一：自己教育への教育，明治図書,1991.
- 11) 金子忠夫編他：生涯学習をめざすアメリカの挑戦，教育開発研究所,1993.
- 12) 西村正子：看護婦の生涯教育を考える，一卒業後の自己啓発一，新見女子短期大学紀要，第14巻,1993.
- 13) 日野原重明：何を目指しての看護大学教育か，看護展望,20,1995.
- 14) ポール・ラングラン：生涯教育入門 第一部，全日本社会教育連合会,1982.
- 15) ポール・ラングラン：生涯教育入門 第二部，全日本社会教育連合会,1982.